

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1ク ォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3, 月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/05/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587036904	科目番号 / Subject code	05870369
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12311_006		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (教育相談) / Educational Counseling		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	田山 淳 / Tayama Jiyun, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーター・バーニック / Bernic Peter		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	田山 淳 / Tayama Jiyun		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	田山 淳 / Tayama Jiyun, 西郷 達雄, 小川 さやか, ピーター・バーニック / Bernic Peter		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	jtayama nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	本授業では、教育相談の理論や歴史を中心とした基礎的知識を学習する。基礎的知識に加え、教育現場等で必要な相談に関する技法をいくつか学習する。		
授業到達目標/Goal	個々の児童・生徒の悩みに対応できる知識とスキルを身につける。		
授業方法 (学習指導法) /Method	講義形式 (一部実習形式)		
授業内容/Class outline/Con	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の歴史と意義</li> <li>2. 学校における教育相談体制と相談の進め方</li> <li>3. 児童・生徒の発達に応じた教育相談</li> <li>4. 児童・生徒が抱える心の問題の種類</li> <li>5. 心の問題を明らかにする方法 (1)</li> <li>6. 心の問題を明らかにする方法 (2)</li> <li>7. 来談者中心カウンセリングについて (1)</li> <li>8. 来談者中心カウンセリングについて (2)</li> <li>9. 行動療法・行動カウンセリングについて (1)</li> <li>10. 行動療法・行動カウンセリングについて (2)</li> <li>11. グループエンカウンターについて</li> <li>12. 心理教育について</li> <li>13. 保護者への教育相談</li> <li>14. 各種関係機関との連携</li> <li>15. 総括</li> <li>16. テスト</li> </ol>		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	教育相談、来談者中心カウンセリング、行動療法・行動カウンセリング、長崎県の相談窓口		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>&lt;教科書&gt; ・授業内で配布するプリントを利用する。</p> <p>&lt;参考書&gt; ・よくわかる教育相談 ?やわらかアカデミズム・わかるシリーズ?: 春日井 敏之 (編集), 伊藤 美奈子 (編集), ミネルヴァ書房, 2011 ・図で理解する生徒指導・教育相談: 佐々木 雄二 (著)・笠井仁 (著), 福村出版, 2010 ・教育相談・学校精神保健の基礎知識: 大芦 治 (著), ナカニシヤ出版, 2008 ・相談活動に生かせる15の心理技法: 「月刊学校教育相談」編集部 (編集), ほんの森出版, 2004 ・教育相談?教師教育テキストシリーズ?: 広木 克行 (編集), 学文社, 2008 ・教育相談の理論と実際?よりよい教育実践をめざして: 河村 茂雄, 図書文化社, 2012 ・教育相談入門 ?こころの科学叢書?: 高野久美子, 日本評論社, 2012</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 試験の結果30%</li> <li>2) レポート・提出物40%</li> <li>3) 出席および授業態度30%</li> </ol>		
受講要件 (履修条件) /Requirements			
アクセシビリティ /Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」(障がい学生支援室) にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp</p>		
備考 (URL) /Remarks(URL)	地域課題と関連して、長崎県・市の教育相談窓口についても概観する。		

学生へのメッセージ/Message for students	授業理解度の自己評価を導入している関係上、毎回レポートを提出して頂きます。ご意見・ご質問などはメールでお願いいたします。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	教育相談の歴史と意義
第2回	学校における教育相談体制と相談の進め方
第3回	児童・生徒の発達に応じた教育相談
第4回	児童・生徒が抱える心の問題の種類
第5回	心の問題を明らかにする方法(1)
第6回	心の問題を明らかにする方法(2)
第7回	来談者中心カウンセリングについて(1)
第8回	来談者中心カウンセリングについて(2)
第9回	行動療法・行動カウンセリングについて(1)
第10回	行動療法・行動カウンセリングについて(2)
第11回	グループエンカウンターについて
第12回	心理教育について
第13回	保護者への教育相談
第14回	各種関係機関との連携
第15回	総括
第16回	テスト

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3, 月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587037702	科目番号 / Subject code	05870377
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12341_005		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (身のまわりの科学) / Science in Daily Life		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	藤本 登 / Fujimoto Noboru, 田山 淳 / Tayama Jiyun, 鎌田 英一郎 / Eiichiro Kamada		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	藤本 登 / Fujimoto Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	藤本 登 / Fujimoto Noboru, 鎌田 英一郎 / Eiichiro Kamada		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	n-fuji nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してくだ さい)		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部技術美術教棟115室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2360		
担当教員オフィスアワー/Office hours	8:00?8:45及び昼休み		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	私たちの生活に潜む問題点を科学的な視点から捉え、自分なりの解決策を考えます。		
授業到達目標/Goal	自ら生活に潜む問題点を発見し、それを解決するための考え方とスキルを身につける。		
授業方法 (学習指導法) /Method	本講義は一般的な講義と参加型・体験型学習を織り交ぜながら実施します。基本的には毎回到提示 或いは各班で決めたテーマをもとに背景、事象、問題点を抽出しながら、課題解決を試みます。た だし、必要なスキルについては講義と演習により教授します。なお、毎回、その週に見つけた暮ら しの中の問題を議論する場面を導入時に設けるので、関連する資料 (新聞や雑誌、写真等) を持参 して下さい。		
授業内容/Class outline/Con	第1回オリエンテーションとリスク認知調査、第2・3回リスクから環境や社会を考える (調査結果の 分析、情報認知)、第4・5回持続可能な社会を目指して! (エコロジカルフットプリント、政策決 定)、第6・7回環境問題を考える (水、食、ごみ)、第8?10回エネルギー社会を考える (エネルギ ー問題、電源構成、原子力問題)、第11・12回放射線を考える (基礎知識・実験、影響と利用)、 第13・14回電気のゴミを考える (高レベル放射性廃棄物処分地選定)、第15回課題発表・総合討論		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	衣食住に関わる日常生活、環境、健康		
教科書・教材・参考書/Textbook,Teaching material,and Reference book	資料は適宜配布するか、LACSに掲載します。 エコロジカル・フットプリント・レポート日本2014:世界自然保護基金ジャパン エネルギー経済統計要覧:省エネルギーセンター、エネルギー白書:経済産業省、環境・循環型社 会・生物多様性白書:環境省など		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	講義時に提示課題の評価 (50%) 最終レポート (30%) 講義中のディスカッション等の貢献度 (20%)		
受講要件 (履修条件) /Requirements	生活や社会を改善したい、未来のエネルギー社会を考えたい学生		
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション (概要、ねらい、ルール)、アイスブレイキング 講義: 主体的に学ぶには (リスク認知調査含む)		
第2回	テーマ: リスクから環境や社会を考える? (調査結果の分析と情報認識・伝達)		

第3回	テーマ：持続可能な社会を目指して！? (エコロジカルフットプリントの概要と政策決定) 宿題として、各自の電力・水・ガス消費量を用いて、エコロジカルフットプリントの算出があります。
第4回	テーマ：持続可能な社会を目指して！? (各自のエコロジカルフットプリントから自らの生活を振り返る) 私の生活に潜む問題は？ (課題「未来の原子力と高レベル放射性廃棄物処理」と班編制)
第5回	テーマ：環境問題のトレードオフを考える (水、食：バーチャルウォーター) 担当：鎌田英一郎
第6回	テーマ：環境問題のトレードオフを考える (食、ごみ：LCAやEA21などの評価方法含む) 担当：鎌田英一郎
第7回	テーマ：エネルギー社会の現状と課題 (エネルギー問題)
第8回	テーマ：未来のエネルギー社会を考える (電源構成、原子力問題)
第9回	テーマ：放射線を考える (基礎知識・霧箱実験)
第10回	テーマ：放射線を考える (影響と利用・放射線測定実験)
第11回	テーマ：未来のエネルギー社会を考える (原子力と再生可能エネルギー)
第12回	中間発表・質疑応答：講義5で設定した課題についての発表 (各班10分程度)
第13回	テーマ：電気のごみを考える? (高レベル放射性廃棄物処理とは) 原子力発電環境整備機構：NUMOとのコラボWS
第14回	テーマ：電気のごみを考える? (高レベル放射性廃棄物処分地選定) 原子力発電環境整備機構：NUMOとのコラボWS
第15回	講義5で設定した課題についての発表 (各10分程度)・総合討論
第16回	

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 4, 火 / Tue 5
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/21		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587038502	科目番号 / Subject code	05870385
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 12361_005		
授業科目名 / Subject	教育と社会 (環境と社会) / Environment and Society		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa, 田山 淳 / Tayama Jiyun, 高橋 甲介 / Takahashi Kosuke		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	星野 由雅 / Hoshino Yoshimasa, 高橋 甲介 / Takahashi Kosuke		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟23 / RoomA-23		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部の学生で「教育と社会」のテーマ (b20) を選択したもの		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hoshino_nagasaki-u.ac.jp (星野), kosuket_nagasaki-u.ac.jp (高橋) (メールを送信する を@に変更して送信してくだ さい)		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部4階 4 1 5 研究室 (星野) 教育学部2階 2 3 3 研究室 (高橋)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2332 (星野) 095-819-2404 (高橋)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日以外の昼休み (星野) 適宜相談してください (高橋)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因 がどのように環境や人間等に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように 扱って行けば良いのかを考える。また、ドイツおよびネパールの環境と社会との関わりを多角的に 調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。長崎県の環境に関する課題も取り上げ、 対策・施策について理解を深める。		
授業到達目標/Goal	1. 現代社会の中で環境要因がどのように自然環境や生活環境および人間や動植物に影響を与えて いるかを多角的に調べることができる。 2. 自然環境や生活環境および人間や動植物に影響を与えている環境要因が何か。また、どのよう な影響を与えているかを説明することができる。 3. 影響を与えている環境要因に対して社会がどのように対処していけばよいのか。環境と社会と の関わりのあるべき姿について根拠を示して自らの意見を述べるができる。 4. 学校教育の中で児童・生徒に環境と社会とのかかわりの何を伝えるべきか。また、環境に関す る学習過程の中で児童・生徒にどのような活動をさせるのがよいか、根拠を示して自分の意見を述 べるができる。 5. 長崎県の抱える環境に関する課題について例を挙げて説明することができる。		
授業方法 (学習指導法) /Method	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書、配布資料、参考書等で学習する とともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容 に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。学習内容の定着を図る目的で小テストを学生自ら が作成する。		

授業内容/Class outline/Con	<p>第1回：オリエンテーションとイントロダクション。授業内で演習プリント（日本の公害・長崎の公害）を課す。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第2回：環境法規（長崎県の環境基本計画を含む）とドイツの環境事情について、星野がプレゼンを行う。授業内で授業内容に関わる演習プリントを課す。ネパール国についての調べ学習課題プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第3回：ネパールの環境事情について、ゲストスピーカー（西九州大学 横尾美智代 教授）のお話。 再び、受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第4回：本授業で取り上げる5つのテーマを選定する。テーマごとに班を編成する。班ごとのプレゼンによる発表日を決める。 星野がプレゼンの例を行う。 【テーマ1の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p> <p>第5回：班ごとにテーマ1について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。一人約2分間でテーマ2の必須学習事項についてプレゼンテーションを行う。なお、各テーマに関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。 【全員課題？（A4，1枚）：テーマ2について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ2について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題？：LACS上でテーマ1の小テスト問題の評価を投票する。】 【テーマ3の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p> <p>第6回？第10回：第5回と同様。</p> <p>第11回：人の行動と環境要因の相互作用について、高橋がプレゼンを行う。受講者の行動に影響を与えている環境要因を挙げるプリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p> <p>第12回：環境要因の工夫により、人の行動を変容させ、環境問題を解決した研究事例について高橋がプレゼンで紹介する。その事例および前半での学習をふまえ、身近な環境で解決が望まれる問題のテーマを3つ選定する。テーマ毎に担当する班を決定する。</p> <p>第13回：テーマ1の担当班は、その問題解決の為に考えられる環境要因の工夫について発表する。各班の発表について評価用紙に記入し、フィードバックする。 【全員課題：評価用紙への記入と提出】</p> <p>第14回？15回：第13回と同様（テーマ2？3について実施する）</p>
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	
キーワード/Key word	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育、長崎県の環境課題
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会</p> <p>参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全？くらしの安全科学」共立出版</p> <p>参考書3：島宗理「パフォーマンス・マネジメント？問題解決のための行動分析学？」米田出版</p>
成績評価の方法・基準等/Evaluation	1回から10回までの評価：授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50%、授業中の小テスト20%、課題レポート20%、発表10%として評価する。11回から15回までの評価：授業中の課題レポート20%、プレゼンテーション50%、評価用紙30%により評価する。合格基準は、これらの総合点で60%以上とする。
受講要件（履修条件）/Requirements	定員を80名までとします。
アクセシビリティ/Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@m1.nagasaki-u.ac.jp</p>
備考（URL）/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	他の班のプレゼンテーションにおいても、積極的に質問、意見を述べること。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	<p>第1回：オリエンテーションとイントロダクション。授業内で演習プリント（日本の公害・長崎の公害）を課す。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p>
第2回	<p>第2回：環境法規（長崎県の環境基本計画を含む）とドイツの環境事情について、星野がプレゼンを行う。授業内で授業内容に関わる演習プリントを課す。ネパール国についての調べ学習課題プリントを課す。 【全員課題：個人用課題プリント】</p>
第3回	<p>第3回：ネパールの環境事情について、ゲストスピーカー（西九州大学 横尾美智代 教授）のお話。 再び、受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）プリントを課す。</p>
第4回	<p>第4回：本授業で取り上げる5つのテーマを選定する。テーマごとに班を編成する。班ごとのプレゼンによる発表日を決める。 星野がプレゼンの例を行う。 【テーマ1の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>
第5回	<p>第5回：テーマ1について一人2分？4分程度で1番目の班がプレゼンを行う。班ごとにテーマ1について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。なお、テーマ1に関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。 【全員課題（A4，1枚）：テーマ2について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ2について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題：LACS上でテーマ1の小テスト問題の評価を投票する。】 【テーマ2の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>

第6回	<p>第6回：テーマ2について一人2分?4分程度で2番目の班がプレゼンを行う。班ごとにテーマ2について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。なお、テーマ2に関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。</p> <p>【全員課題（A4，1枚）：テーマ3について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ3について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題：LACS上でテーマ2の小テスト問題の評価を投票する。】</p> <p>【テーマ3の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>
第7回	<p>第7回：テーマ3について一人2分?4分程度で3番目の班がプレゼンを行う。班ごとにテーマ3について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。なお、テーマ3に関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。</p> <p>【全員課題（A4，1枚）：テーマ4について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ4について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題：LACS上でテーマ3の小テスト問題の評価を投票する。】</p> <p>【テーマ4の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>
第8回	<p>第8回：テーマ4について一人2分?4分程度で4番目の班がプレゼンを行う。班ごとにテーマ4について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。なお、テーマ4に関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。</p> <p>【全員課題（A4，1枚）：テーマ5について必須学習事項1つを調べ、かつテーマ5について児童・生徒に理解させたいこと、活動させたいことを述べる。全員課題：LACS上でテーマ4の小テスト問題の評価を投票する。】</p> <p>【テーマ5の担当班：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>
第9回	<p>第8回：テーマ5について一人2分?4分程度で5番目の班がプレゼンを行う。班ごとにテーマ5について、小テスト問題（A4で1枚程度）を作成する。班ごとに作成した小テスト問題を提出する。なお、テーマ5に関して長崎県の場合も合わせて取り上げる。</p> <p>【全員課題（A4，1枚）：これまでのテーマについて討論したい事項を挙げ、かつその事項についていかに児童・生徒を指導したらよいと考えるか。その指導法とそれを選択した根拠を記載する。全員課題：LACS上でテーマ5の小テスト問題の評価を投票する。】</p> <p>【討論事項希望者：プレゼン用ファイルの課題あり】</p>
第10回	<p>これまで取り上げたテーマに関する学習事項の中から、討論を行うものについて、希望者がプレゼンを行う。それに基づき、皆で議論をするとともに、児童・生徒に指導する際の課題を明らかにする。</p> <p>【全員課題：討論内容の概要をA41枚にまとめ、提出する。】</p>
第11回	<p>環境要因が人の行動に与える影響について、高橋がプレゼンを行う。受講者の行動に影響を与えている環境要因を挙げる課題を指示する。【課題：個人レポート】</p>
第12回	<p>環境要因の工夫により、人の行動を変容させ、環境問題を解決した研究事例について高橋がプレゼンにより例示する。身近な環境で解決が望まれる問題のテーマ3つを選定し、問題を解決する環境要因について班ごとに協議させる。テーマ毎に発表を担当する班を決定する。</p>
第13回	<p>テーマ1について問題を解決するための環境要因の工夫（操作）について、担当する班が発表する。テーマ1の担当ではない班は、それらの発表を聞いた上で質疑応答およびフィードバックシートに記入する。</p>
第14回	<p>テーマ2について、第13回と同様の授業内容を実施する。</p>
第15回	<p>テーマ3について、第13回および第14回と同様の授業内容を実施する。</p>
第16回	<p>定期試験</p>